

オーストラリアにおける産業遺産の保全と利活用

The Conservation and Re-use of Industrial Heritages in Australia

—NSW 州のロックス地域を事例として—

日本大学 学生会員 ○神辺 晴美

日本大学 正会員 伊東 孝

1. はじめに

オーストラリア大陸がイギリスの植民地となったのは 1770 年であり、歴史は 200 年程度しかない。しかしオーストラリアでは 2005 年に新しく国の法律ができ、文化遺産保全の大きな波の中にある。法制度としては国の国家遺産、連邦遺産、国登録遺産そして州の州遺産、地域遺産がある。しかし国も州も日本の登録遺産のようなものであり、厳しい規制もなく、助成金はできるだけ多くの遺産を補助するために長期の助成金が得られる保証はない。つまり遺産を多様な形で利用することができる反面、利活用をして保全のための資金を生み出すかが重要になる。

また遺産は地域社会が参加して保全する形がよい。市民が活用に参加することで利益を受けるのと同時に、保全の費用を捻出することができる。そして遺産が生き生きと保全されることでその場の価値を高めると同時に市民が保全に対する理解を深め、今後の保全のための活動へとつながり、「持続可能な遺産の保全」を行うことができるのである。

NSW 州の州都シドニーのロックス地域では、市民を巻き込んだ遺産の保全と利活用を積極的に行い、観光地として再生している。そこでロックス地域の産業遺産の保全と利活用について調査する。

2. NSW 州の産業遺産

(1) 産業遺産とは？

産業遺産の定義は諸説あるが、ここでは、ナショナル・トラストの作成した『産業遺産の保全のための国家政策とガイドライン (『National Policy and Guidelines for the Conservation of industrial heritage』)』の定義を引用する。

「産業遺産とは、産業、科学、技術、技巧的なプロセス、モノの製造にかかわる歴史、地質や研究を含む。よって産業遺産はオーストラリアの遺産の過去を証言する文書や文化的に重要な物質として定義できる。」としている。

そこで、今回の対象となるのは、建築物だけではなく、付属の機械、無形文化財も含むこととする。

(2) NSW 州の産業遺産

NSW 州の遺産としては、国の国家遺産 0 箇所、連邦遺産 43 箇所、州・地域遺産として 501 箇所の産業遺産が登録されている。しかし日本の 21 倍の国土を持つオーストラリアでは、その分布は点々としており、ネットワークを組むことが難しくなっている。そんな中、オーストラリアのロックス地域では、約 4 km^2 の土地に 41 箇所もの産業遺産が登録されており、唯一、狭い地域に多くの遺産が登録されている場所である。

3. ロックスの遺産保護の歴史

ロックスはキャプテンクックが上陸したオーストラリア発祥の地である。しかし州都シドニーに位置するため、常に新しい開発との抗争の中にあった。第一の破壊の危機は、1900 年代に起こる。港町として発展する一方、港にゴミが打ち捨てられペストが流行したため、公衆衛生の整っていない家が大規模に取り壊された。

そして第二の危機は 1926 年、ハーバー・ブリッジの建設である。橋の建設により多くの住宅が取り壊され、ロックス半島は東西に分断される形となった。しかし現在ではハーバー・ブリッジも遺産の一つとして認定されている。

そして 1960 年代に入り、ロックス地域に最大の破壊の危機がやってくる。ロックスを高層ビル群の立ち並ぶ住居地区にしようという計画が持ち上がったのである。昔からの住民は保全を訴えたが、多くの新しい入植者を受け入れて発展しているオーストラリアにとって、最新の新しいビルの方が魅力的に写ったのも事実であり、都市を二分する抗争が起こった。しかし根強い市民運動の結果、新しい開発計画の中止に持ち込んだ。

そして 1970 年代になると、オーストラリアでも保全の動きが強まり、ロックス地域でも、その遺産を利用し

キーワード 遺産 保全 利活用

連絡先: 日本大学理工学部社会交通工学科 都市環境計画研修室 TEL 047-469-5572 FAX 047-469-2581

た地域活性化に利用しようという考えに変わった。

4. 保全と利活用

(1) 構造物別保全状況

ロックス地域で登録されている遺産は 41 箇所ある。細かく見てみると卸売・小売業遺産が半数以上を占め、29 箇所となっている。次に軍事遺産が 3 箇所、次に製造業遺産、道路輸送事業遺産、土木工事業遺産が各 2 箇所となっている。そしてガス事業遺産、鉱業遺産、電気事業遺産が各 1 箇所となっている。

(2) 利活用の状況

次に、現在の利用の方法をみてみると、小売店のほとんどが内部を改装しているものも多いがレストランや洋服店などの小売店として利用されている。また倉庫や鍛冶屋など、昔の昨日を失った建物も小売店やインフォメーションセンター、ギャラリーに利用したりして、小売店がたくさんあったことを基盤にして、ショッピング街を中心とした観光地として発展させていることがわかる。

そして道路橋、トンネル、変電所は現在も変電所として利用されており、ガス会社もガス会社の倉庫としての利用ではあるが、昔の機能をそのまま維持している建造物もある。

(3) 教育

遺産の重要性を理解してもらうための教育の手段として博物館 2 箇所と 3 種類のツアーがある。まず博物館はロックス・ディスカバリー・ミュージアムとパイロン・ルックアウトの 2 箇所であり、前者がロックス地域の歴史と保全について紹介しており、パイロン・ルックアウトはハーバーブリッジの東南の橋脚に設置し、ハーバーブリッジについて紹介している。そしてツアーとしては、ロックスの遺跡を見て回るディスカバリー・ツアーとロックスにまつわる幽霊話の発祥の地を回るゴーストツアーがある。そしてハーバーブリッジを登るブリッジクライムがある。通常のツアーに加え、幽霊話や橋梁を登るというスパイスをくわえることにより、歴史に興味のない人たちをもひきつけ、多くの人々にその歴史の重要性を伝えることができる。

5. 観光客数

ロックスに訪れた観光客を見てみると、2005 年 7 月から 2006 年 6 月までの一年間で 13,813,699 人が訪れた。その内訳を見てみると、58%がシドニー都心部、20%が NSW 週の他の地域と他の州、22%が海外の観光客とな

っている。このように、シドニーに住んでいる人々が何度も訪れる場所にしたこと、オーストラリア国内の旅行者の獲得が成功の大きな鍵となっている。

次に、ロックスで何をするかを調べたところ、5 分の 4 の観光客が観光を目的にしている (82%)。観光をして空間を楽しみに来ている人が大多数を占めており、これはロックスの町並みが保全されたからこそその結果であると言えるであろう。

そしてすべての層の 3 分の 2 の人がレストランやカフェに立ち寄っており、レストランやカフェの利用が多いことが伺える。(62%) また、週末のみ開かれるロックスマーケットの集客も多く、その地域により人を呼ぶため努力が実を結んでいる。(表)

活動	海外(%)	国内(%)	シドニー(%)
観光/空間を楽しむ	82	77	42
飲食	64	62	60
土産購入	42	24	10
ビュッセルセンター訪問	30	19	5
暇つぶし/バラック	23	39	44
ロックスマーケット(週末のみ)	21	19	23
アートギャラリー/博物館	18	17	7
バー/パブ	18	15	16
洋服/アクセサリー購入	17	21	13
宿泊	13	9	1
ブリッジクライム	9	8	3

ロックス地域を訪れた目的

6. 結論

ロックス地域では、市民抗争の末、多くの遺産が保全されるにいたった。日本においても、遺産の保全に最初に動きを見せたのは市民であった。遺産の保全は市民の力によって支えられ手いる。現在ではその遺産を利用して観光地として見事に再生を果たしている。そこで注目すべき点は、そして小売店が多くあったことを利用して、レストランやお店を充実させ、地元の人々も訪れる場所にするこで、定期的な顧客をキープすることで利益を上げていることである。

その一方、教育も充実させ、ブリッジクライムやゴーストツアーなど一味変わった体験を行いながらその場所について知り、その重要性を認識できるアトラクションを用意することで、遺産の重要性の認識を深めている。

ロックス地域では遺産を地域で保全し、巧みな経営努力と、教育を充実させるという理想的な保護体系を生み出していることがわかった。

参考文献

・ Australian Council of National Trust and Helen Grinbergs 『The National Trust National Policy and Guidelines for the Conservation of industrial heritage』 1997

インタビュー協力

・ オーストラリア工学遺産委員会 NSW 州局、Don Fraser 氏 (2006 年 8 月 12 日)

・ ナショナル・トラスト NSW 州部署の産業遺産担当 Tony Brassil 氏 (2006 年 8 月 11 日)

